木更	津工業高	等専門学	交 開講年度 🗓	 F成29年度 (2	2017年度)	授業科目	実験実習Ⅲ	
科目基					-,			
<u>- 1 日 王</u> 科目番号		0046			科目区分	専門 / 必	·····································	
<u>- 1 日 日 月</u> 授業形態		実験・影	 <b></b> 建習		単位の種別と単位			
開設学科	-		<u> </u>			3		
			₩ <b>—</b> — 17			3		
開設期 通年   教科書/教材 実験実習II			 gIII指導書			3		
<u> </u>				11指導書 沢口 義人,大橋 太郎,鴇田 正俊,鈴木 聡,伊藤 操,坂元 周作				
			叁,沢口 我人,人倘 么即	, 梅田 止後, 却不	城,伊滕 採,収兀 戸	01'F		
到達目								
できるよ	うに各自取		印識に関する理解を深め 	り、これらを応用 	した計測・制御技 	術を学ぶ。また、 	・マイコンを用いた制御を行うことが 	
ルーブリック			rm-to-t-t-t-t-t-t-t-t-t-t-t-t-t-t-t-t-t-t					
			理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
レポート	作成		事前に内容を十分に理解しテレポートを作成し、余裕を持ってレポート締切前に受理されることができる		内容を十分に理解し、レポート締 切までに受理されることができる		内容を十分に理解できず、レポー 5 ト締切までに受理されない	
専門分野	らくの理解		必要な専門知識を事前に学習し、 率先して実験に用いることができ る		必要な専門知識について指導書を 読み学習し、実験に用いることが できる		で が 必要な専門知識を学習せず、実験 に用いることができない	
実験への対応				知識や技術を生かし、自ら率先し 知識や技術を生かして実験実習を行うことができる 行うことができる			全 知識や技術を実験実習に用いることができない	
 学科の	到達日標]	項目との関		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· · · · · · · · ·			
		<u>жис «Уіл</u>	7 I/IV					
教育方:	<u> </u>	- 中のハー	マナエ四名の一・フェー・ション・・	\fn=dı ≠ : <del>::: ≥\ +</del> \'··	マロナンノ 中野 ナンマ	l / 一	TBAD在大机提士フ+ 4 /- 1 - 2	
概要			野を埋解する上で必要な ハ、評価を行う。	川誠を坐字たけ	じはなく実験を通	して子ふ。また、	理解度を把握するためにレポート作	
授業の進	め方・方法	実験を行		ート作成を行い マ実験のグルー	、期日内に受理さ プと前半テーマ実	れるまで各担当 験・後半ライン	教員にレポートを修正し、提出する。 トレーサのグループに分けて実験実習	
事前に指導 注意点 書に目を通 計測機器の			尊書に目を通し、ノート・グラフ用紙・レポート用紙・筆記用具・定規・電卓・指導書を用意し、事前に指導 通しておくこと。装置の取り扱い方法等は他の授業とは異なり事後に復習しにくいので、使用した電子部品や の名前および取り扱い方法は実験中に充分理解しておくこと。なお、すべての実験テーマを実施し、すべての					
授業計	面	レボー	トが提出されないと評価	されないので注	意すること。			
		週	授業内容			週ごとの到達目		
		1週	ガイダンス		実験の進め方などについて理解する			
		2週		(1)		交流回路の基本的現象を実験する		
			交流回路の基礎実験					
		3週	交流回路の基礎実験	(2)		交流回路の発展的現象を実験する		
	1stQ	4週	直流安定化電源(1)			直流安定化電源の基本を実験する		
	1300	5週	直流安定化電源(2)			直流安定化電源の安定化について実験する		
		6週	振動の実験(1)			振動の基本的現象を実験する		
		7週	振動の実験(2)			振動の減衰などについて実験する		
		8週	まとめ			これまでの内容について自分なりにまとめる		
前期		9週	シーケンス制御(1)			シーケンス制御の基本的な使用法を実験する		
		10週	シーケンス制御(2)			シーケンス制御の発展的な使用法を実験する		
		11週	各種センサの取り扱い	١ (1)		各種センサの取り扱いについて実験する		
		12週	各種センサの取り扱い			各種センサの取り扱いについて実験する		
	2ndQ	13週	トランジスタの各種技			トランジスタの各種接地方式について実験する		
		14週	トランジスタの各種技			トランジスタの各種接地方式について実験する		
			1 2 2 2 7 12 7 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	マーピノノエク (乙)				
		15週	まとめ			これまでの内容について自分なりにまとめる		
		16週	まとめ		これまでの内容について自分なりにまとめる			
後期		1週	ガイダンス	/ :		実験の進め方などについて理解する		
		2週	移動ロボットの動作研			1年次に作成した移動ロボットの動作確認を行う		
		3週	移動ロボットの動作確認(2)			1年次に作成した移動ロボットの動作確認を行う		
		4週	インターフェース回路付加			移動ロボットにインターフェース回路を付加する		
	3rdQ	5週	アセンブリ言語プログ	ブラミング(1)		アセンブリ言語の使用方法およびプログラムの動作確認を行う。		
		6週	アセンブリ言語プログラミング(2)			アセンブリ言語を用いて移動ロボットのLEDの点滅重作を行う		
		7週	アセンブリ言語プログ	ブラミング(3)		アセンブリ言語を用いて移動ロボットのLEDの点滅動作を行う		
	L	8週	まとめ			これまでの内容について自分なりにまとめる		
		O:⊞	フャン・ブロー まプログ	ガニニン ガ (4)		アセンブリ言語を用いて移動ロボットのモータ制御を		
	4+4-0	9週	アセンブリ言語プログ			行う   アセンブリ言語を用いて移動ロボットのモータ制御を		
	4thQ	10週	アセンブリ言語プログ	ノフミング(5)		行う アセンブリ言語を用いて移動ロボットのモータ制御を 行う		
		11週	アセンブリ言語プログ	~~~ <del>~</del>		アヤンブリ言語	を用いて移動ロボットのモーク制御:	

		12週	アセンブリ言語プログラミング (7)			アセンブリ言語を用いて移動ロボットのセンサ制御を 行う			
		13週	アセンブリ言語プログラミング (8)			アセンブリ言語を用いて移動ロボットのセンサ制御を 行う			
		14週	アセンブリ言語プログラミング (9)		アセンブリ言語を用いて移動ロボットのセンサ制御を 行う				
		15週	レポートまとめ		これまでの内容について自分なりにまとめる				
	16週 レポートまとめ		b	これまでの内容について自分なりにまとめる					
評価割合									
				レポート		合計			
総合評価割合				100		100			
基礎的能力				50		50			
専門的能力				50		50			